



☀ぽかぽかふくしのまちづくり計画☀ 「廿日市市地域福祉活動計画」

廿日市市社会福祉協議会では、第4期廿日市市地域福祉活動計画を策定するにあたり、その動向を皆さまに知っていただくため、ニュースレターを発行することになりました！！

1. 地域福祉活動計画とは？

「地域福祉活動計画」は、社会福祉協議会が呼びかけて、地域住民、福祉関係者等と協力して、「地域福祉」を推進するための具体的な活動及び行動を推進することで住民みんなが安心・安全で心安らいで暮らし合える地域共生社会づくりを目指すための計画です。



2. 地域福祉活動計画の位置づけ

廿日市市が策定する「廿日市市地域福祉計画」に基づき具体的な行動指針を示したものが、廿日市市社会福祉協議会が策定する「廿日市市地域福祉活動計画」です。それぞれの計画により、連携・協働して地域福祉の推進を図ります。

計画名	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
地域福祉活動計画(社協)	策定	推進		中間評価		期末評価
地域福祉計画(市)	策定					

「廿日市市地域福祉活動計画推進委員会」

第4期廿日市市地域福祉活動計画は、令和8年度～令和12年度の5か年計画です。この計画づくりのため、市民や関係団体の皆さんで構成する「廿日市市地域福祉活動計画推進委員会」が発足しました。

1. 廿日市市地域福祉活動計画推進委員会の役割

地域福祉活動計画の策定や計画の進行管理及び評価を行ないます。

2. 廿日市市地域福祉活動計画推進委員会委員の構成

委員の皆さんが所属している団体は、こども食堂、ボランティアグループ、心療内科、成年後見センター・リーガルサポート、地域コミュニティ組織、老人クラブ、こども園、大学となっています。

また、オブザーバーとして、広島県社会福祉協議会、廿日市市が出席しています。



第1回廿日市市地域福祉活動計画推進委員会の報告

日時：令和7年6月22日（木）19：00～21：00

会場：山崎本社みんなのあいプラザ 2階 健康指導室

参加者：20名（推進委員9名、市職員1名、県社協職員1名、市社協職員9名）

第3期廿日市市地域福祉活動計画のテーマでもある「地域の課題解決力の強化」について、課題や解決するために必要な取組みを意見交換しました。

（裏面へ）



第1回廿日市市地域福祉活動計画推進委員会委員による意見交換（抜粋）

【岩田委員（串戸心療クリニック）】



精神科のデイケア等でボランティアを受入れるためには病気への理解を促進する必要がある。精神疾患に対する周知として、学校など授業の一環で伝える機会があれば身近に感じてもらえるはず。

【二宮委員（浅原の未来を創る会）】



企業と地域の意識に差があることを感じるので企業と地域の顔合わせが必要。例えば、地元の企業のPRを市民センター祭りでいき、そこに勤める社員の家族に参加してもらい何かできないか考えてみてはどうか？

【小田委員（はつかいちこども食堂TOMO）】



ボランティアには、楽しみのために参加してもらいたい気持ちもある。ただ、人手不足ではあるので、その辺りの伝え方を工夫していく必要があると感じている。みんなが語り合える時間を作れると良いのでは。

【鈴政委員（老人クラブ福寿会）】



料理教室をしたりすると人に来てもらえる。行事のチラシを配る時に直接、声をかけていくことが大事。声かけした相手が、また別の知り合いに声をかけてくれる。何にしても日頃の付き合いが大切。

【叶井委員（てくてく）】



ボランティア活動するにしても何をしたらいいのかわからない。具体的に「これを手伝ってください」と分かりやすく周知することで、「自分にもできるかも」と若い世代に伝わり活動者が増えるのではないかなと思う。

【川口委員（老人クラブ大野万年青会連合会）】



60代、70代の方が老人クラブに入らない。サロンの世話人に若い世代が入ってこない。高齢者の世話人が高齢者の参加者のお世話をしている状況。幅広い世代の人が集まるサロンにできると良いが難しい。

【田中委員（宮島こども園）】



様々な世代との連携が大切だが、どうやってつながれば良いのかわからない人もいる。そうした人に呼びかけて連携できる場を作れると良い。どんなことを手伝ってもらいたいかをピンポイントで伝えていくことが大切。

【水馬委員（日本赤十字広島看護大学）】



小さい頃からボランティア体験できる場があると良い。活動をして良かったと思える体験を積み重ねることが大切で今後につながる。社会貢献したい企業もあるので活動の場を広げていくことができると良い。

【湯浅委員（成年後見センター・リーガルサポート広島県支部）】



災害救援ボランティアはSNSで広がっている。周知するのに重要な方法でもあるSNSをもっと活用していけると良いのではないかな。その方がボランティアに入りやすいと思う。



グループワークで委員の皆さんそれぞれの立場から、たくさんのご意見をいただきました。今後の計画に反映させる形で策定を進めて行きたいと思います。

ま と め

■ 今後の方向性・提案

- 【ボランティア活動の「見える化」】
 - ・「何を、いつ、どこで、どれだけ」手伝って欲しいのかを具体的に。
 - ・チラシ・SNS・口コミと連動して周知を工夫する。
 - ・小さな「ありがとう体験」が残るようなフィードバックをする。
- 【参加しやすい“きっかけ”づくり】
 - ・「一緒に行こう」「ついでにやってみよう」など声かけを大切にする。
 - ・食や遊びを通じた気軽な交流の場づくり。
 - ・赤ちゃん・親世代・子ども・若者・高齢者が自然に出会える場の設計。
- 【企業・学校・行政との連携強化】
 - ・市民センター祭りや福祉イベントでの企業PR・協賛活動。
 - ・学校教育の一環としての福祉体験を充実（単位や内申とも連動）。
 - ・社協や行政は「つなぐ」役割として、場づくり・仕組みづくりを考える。
- 【情報発信の多様化】
 - ・SNS＋紙面、対面などの方法を組み合わせた情報発信。
 - ・マスコットキャラクターや動画など、感情に訴える情報も有効。
 - ・若者向けにはインセンティブ（プレゼント等）を組み合わせる工夫も大切。

■ 最後に（まとめ）

地域福祉活動の継続には、「知る」「参加する」「続ける」という3ステップを意識した工夫が必要。それぞれの世代・立場に合った関わり方ができるような「柔軟な仕組み」と「地道な関係づくり」の両輪で、活動を支える地域づくりを目指していく。

